

高齢者大学文芸部 7月歌会

嫁ぎ来て眼裏に収めし風景の一つ消えては道路拓
くる 山代 静子
青空は白雲ひとつ遊ばせて深くしずもる初夏の昼
茂田 巖
庭の草抜きても抜きてもまた生ゆる吾も負けじと
中村トメ子
今朝も引きゆく
夕映えに白壁写す水張田に明日の田植えの早苗を
北村 玉恵
運ぶ
囀りの声高々と響かせて梅雨の晴れ間に鶯忙はし
山城 雅子
洗へるに虫喰ひ豆の浮かびるて未練あるがにしば
川口 敦子
し漂ふ
年重ね膝痛ひとつ忘れ来てはるばる唐津虹の松原
今坂 文子
シルバーカー友と押し行く散歩道鶯鳴きてしばし
小池ミエ子
聞き入る
折々の花咲き競ふ狭庭辺にトマトは赤く色づきて
中原 光子
をり
庭隅の柿の黄の花散り敷きて掃く手休めてしばし
荒木 幸
見守る
「転んだらおしまひですよ」と釘さされ整形外科
山田 弘子
を惜々出でぬ
生垣にからまりて咲く朱き花ノウゼンカズラの夏
宮本 幸子
を奏づる

万句の里俳句会 6月句会

老鸛の今日はしきりと鳴く日かな 東 鈴子
薫風や子等境内をよく走る 稲田 羚子
病み猫の命看取りぬ梅雨の夜半 斉藤 貴恵
森深く古墳あまたや額の花 梅田 昭子
ほととぎす鳴いてこの山次の山 光本とよいち
雨粒を乗せて供華とす額の花 小山 照子
全山の音を呑み込み灌荒る、 田中 美智
山水を引いて宮居の肥後昌蒲 吉井 綾子
故郷に小さき母あり合歡の花 北村 君子
花昌蒲愛でる歩みになりにつけり 丸山美代子
竹の子の風ふくたびに伸びにけり 岩木 敬治
梅雨じめりドロップ缶をふつてみる 打出 貞

肥後狂句桜会 例会入選句集より

子供の目 飯食たならばひつつぶれ 小川 繁美
こまごまと 言つて旅立つ子を送り 荒木 玄海
非常口 そつと抜け出す宵の口 藤野 清子
楽なもん 洗わんでええ無洗米 須藤 新生
こまごまと 母が持たせた里の味 窪田 明徳
こまごまと 煩かったが今感謝 中山 晶子
子供の目 正直だけん騙されん 芹川のり子
こまごまと いつも手料理作る母 東 栄次

こまごまと 分別しおる資源ゴミ 光堀 善教
非常口 お陰でまあだ生きとつた 高倉 新米
こまごまと 後で役立つ日記帳 狩野 本六
こまごまと 母の便りの有難さ 藤由 藤紫

泗水短歌会 6月詠草

初夏の光り集めて八ツ手葉の匂うばかりに木戸に
平嶋きくえ
艶めく
里山も藪も拓かれ人住めば子綬鶉鳴かず梟鳴かず
福原美智子
亡夫と植えし菜園を娘と婿つぎくられて作りし大根
藤本のり子
ナマスのうまし
山茶花に白き花咲くごとく見せ寄り添うている白
古田のぶ子
蝶ふたつ
何も無き庭につまずく我が足を労りながら一歩を
宮本 峯子
運ぶ
花植える幼き子等の声渡り舗装路脇にベゴニア咲
吉安 永子
きゆく
麦の穂につつかれながら刈り取りし苦き思いの顕
大島 さと
つ麦の秋
空に透く梅の実色づきあまた見ゆ私の季節今年も
高藤タツノ
巡り来
待つ事の皆無となれば吾は待つ蕾ふくらむ百合の
長尾はるみ
花群

せせらぎ俳句会 6月例会

鉢に咲くは本意に非ず花しのぶ 藤本 邦治
父の日にちよつとおしやれな登山帽 服部 静子
木戸の百合訪ふ客に香を贈り 寺本 和子
浴衣着て昔の下駄も履いてみる 藤本アツ子
泊虹居の古池の金魚に会ひ度しよ 坂本まつえ
父の日のギフトの吾のクールビズ 内村 泊虹
真直に果てなく続く青田径 内村 鈴子
この流れ河骨咲きし幼き日 村山 数恵
地に汗の弾け飛びゆく鎌の先 五丁 義昭
あじさいがとともきれいな雨上がり (中二) 渡辺 一史
あじさいが元気になった雨あがり (中一) 渡辺 大寿

七城短歌会 6月詠草

目の覚めんゆり起こさんと起きん孫 五女
待ち長さ いっちゃんゴール決め切らん 三代
待ち長さ 花嫁御陵は化粧中 千笑
待ち長さ 大病院は懲りつつ 水光
言いなすな 気付かん振りイしとらすと 英坊
飽食の世なれば今朝も罪ならず梅の落ち実を轆き
村上 幾雄
割り過ぐる 誰が捨てしよもぎ葉水路を流れ来る歩みを合わせ
高木 精
弄ばざる 夕の空長く尾をひく飛行機雲そのさい果てに学友
池田 禮子
眠る 鶯が鳴いたと告げむ人も無し岡に佇み一人聞きお
松岡ミチエ
り
旧友が呉たる便り一年振り我の誕生日よく覚えい
池田カツ子
し
六月になりしを疎みウォーキング下校の少女等半
緒方 寛子
袖ルック
マイカーの遮光ガラスに鮮やけくコスモス揺るる
水田紗陽子
青空バックに
水煙上げて五月雨降る屋根を窓より見ており身動
岩下ミツエ
きもせず

旭志文芸俳句会 6月詠草

茶髪の子代掻き弾み農をつぐ 芹川のり子
「ほどほどに幸せ」とあり花の宿 中尾ヨシコ
五月晴除草の我も青に染む 出田みとり
類白の巢は残しけり草刈女 水谷 ミネ
大阿蘇の雲海の底宿の朝 芹川 蓉子
春芝や曾孫に歩けよと手を引いて 郷 ミヤ子
早苗田の映す五岳や小波ゆれ 中山 栄子
梅若葉太鼓橋の朱に映ゆる 東 芳子

肥後狂句水笑会 6月例会

待ち長さ 弁当の要る診察日 好茶
雨続き 畳も兵児もカビだらけ 左党
言いなすな 負け惜しみてち思わるる 三水
待ち長さ 七年待つて「差し戻し」 美由
あなたが持病は時々脈の揃わんと 美樹
待ち長さ 念入れてさす胃の透視 梅月